

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 6 月 9 日現在

機関番号：32634

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2012～2014

課題番号：24520729

研究課題名(和文) 帝政期ドイツにおけるトランスナショナルな人的移動とジェンダー秩序に関する研究

研究課題名(英文) Transnational Mobility and Gender Order in Imperial Germany

## 研究代表者

日暮 美奈子 (Higurashi, Minako)

専修大学・文学部・教授

研究者番号：30384671

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 4,000,000円

研究成果の概要(和文)：本共同研究は、トランスナショナル史とジェンダー史の視点から帝政期ドイツの人的移動とその管理体制について分析したものである。たとえば、研究代表者は「婦女売買」に関わるドイツ国内の警察ネットワークの形成を検証した。また、共同研究者は植民地都市青島における売春業者によって斡旋された日本人女性の事例を扱った。これらの研究を通じて、本研究プロジェクトは帝政期ドイツのトランスナショナルな人的移動と国際秩序の形成が密接に関連する過程を示した。

研究成果の概要(英文)：This research project analyzes trans-border mobility and its control system in Imperial Germany from the perspective of transnational and gender history. For instance, the principal investigator of this project focuses on the construction of information and the surveillance network of the German police, and examines the prevalence of "Maedchenhandel" (girl trafficking). The co-investigator studies the case of the Japanese women who were recruited in Qingdao a German colonial city in China by some prostitution promoters. The studies of this research project present how transnational mobility and the process of maintaining international order coincided closely in Imperial Germany.

研究分野：歴史学

キーワード：トランスナショナル史 ジェンダー史 ドイツ史 人の移動 グローバリゼーション 帝政期ドイツ  
近代史

### 1. 研究開始当初の背景

ドイツ帝国(1871~1918年)に関する歴史研究は、近年、トランスナショナル史あるいはグローバル史による挑戦を受けている。人びとの越境的な行為や経験を史的に明らかにし、ドイツ帝国の歴史をグローバルな連関のなかに位置づける歴史研究の営みは、新たな研究領域として活況を呈してきた。

この研究領域の力点は、第一に、比較史よりも、関係史的な手法をとりながら、近代ドイツの歴史的な形成過程が、トランスナショナルな要因によってどのような影響を受けてきたのか、そしてドイツの歴史経験が同時代の世界的な連鎖の展開にどのような影響を与えてきたのかという相互作用の過程を、実証的に明らかにすることにある。第二に、この研究領域は、単に国民国家の相対化を目指すものではないことである。19世紀中葉から劇的に高まった世界経済の一体化と越境的な資本・人口・商品の移動は、国民国家の形成過程と同時に起きたものであった。国民化とグローバル化の相互の緊張関係のなかで、それらを規定する権力が越境的行為にどのように作用したのか、そして越境的な行為が逆にそれらの権力をどのように規定したのかを、実証的に明らかにしようとするものである。

### 2. 研究の目的

これまで研究代表者は、19・20世紀転換期のドイツで社会問題化した「婦女売買」の特性を、主として警察史料・同時代文献の分析を通じて明らかにしてきた。さらに、それらの成果をふまえて、19・20世紀転換期のグローバルな「社会改良」的規範意識の形成過程に「婦女売買」問題を位置づける試みに取り組んでいる。このグローバルな視点の導入は、上記の新しい研究潮流に連なるものである。

本共同研究は、この新しい研究潮流と研究代表者の研究状況を踏まえて、同じく近代ドイツ史をトランスナショナルな視点から研究してきた他の研究者とともに、帝政期ドイツにおける越境的な人の移動とそれらに対する管理のあり方を明らかにするものである。そのうえで、越境的な行為が本国社会および国外で居住したドイツ籍の人々の社会秩序をどのように規定、あるいは再規定したかを検討する。

その際、とくに研究代表者および研究分担者は、ジェンダーの視点を重視する。なぜなら政策的な移民にせよ、自発的な移民にせよ、人の移動は送り出し社会・受け入れ社会の再生産の問題と密接に関わるものであり、また越境的な移動とそれにともなった社会的な実践は、性規範を規定する権力と不可分の関係にあるからである。

### 3. 研究の方法

(1) 本共同研究は、研究代表者を含めた6名

により3年間実施された。本研究には、ドイツ現地での文書館史料ならびに博物館調査といった現地での史資料の収集が不可欠であり、本研究期間中、メンバー各自の担当課題に即した在外調査が行われた。初年度は、日暮美奈子、鈴木楠緒子、伊東直美が各自、プロイセン文化財団州立枢密文書館、ドイツ連邦文書館、プレーメン州立文書館、ハンブルク州立文書館での調査にあたった。2年目は、大井知範と松本彰がそれぞれドイツ連邦軍事文書館およびロシア他5カ国の戦争記念碑・博物館の調査を実施した。浅田進史は、他の研究費を活用し、ドイツ外務省政治文書館およびドイツ連邦文書館で調査を行った。

(2) 本期間中、各年度3~4回のメンバー間での研究会を実施し、研究の視角・方法論、調査の進め方、研究状況の確認、成果発表のための意見交換、共同討論を行った。また、ドイツ近代史におけるトランスナショナル史・グローバル史をリードするゼバスティアン・コンラート氏(ベルリン自由大学)と意見交換を行うことで、本共同研究を国際的な研究動向と対照させることを意図した。

### 4. 研究成果

(1) 帝政期ドイツの越境と管理を分析するために、本共同研究を通じて、メンバー間で以下のような研究枠組みについて理解が得られた。

まず、越境する前段階での越境への国内的な管理・監視、ドイツ国外へ越境した際の国外での管理・監視、国外からドイツ国内への越境の国内外での管理・監視という3つの局面を考慮に入れる必要がある。

次に、ドイツ帝国の創建から崩壊までの具体的な分析を行う場合、ドイツ帝国創建以前・以後、帝国主義的世界秩序の形成過程、第一次世界大戦の影響、という要因を念頭に置かなければならない。

最後に、これらの ~ のいずれも越境的な行為とその管理体制には、国際的な要因が絡んでくる。

これらの要因を念頭に置いたうえで、研究代表者と研究分担者は、ジェンダーの視点を加えながら、ドイツ本国内の社会秩序と在外ドイツ系居留民社会・植民地社会秩序のあり方を検討する必要がある。

(2) 上記の研究枠組みのなかで、ドイツ国内から国外への越境について、主として分析を担当したメンバーは、研究代表者である日暮および鈴木である。まず、本研究メンバーの鈴木は、 . . . の問題に取り組んだ。具体的には、ドイツ帝国成立初期にあたる1870年代に日本に居住したドイツ籍民をめぐる内地旅行問題を考察した。これは本科研年度中に出版された単著の延長に位置づけられる研究である。この研究では、東アジアにおけるドイツ系居留民の移動に対する領事館

による把握とその国際問題化した際の対応が明らかにされた。

日暮は、世紀転換期のドイツ国内における「婦女売買」をめぐる実態と言説を国際的な警察行動のネットワークの形成と関連させて分析することで、・・・の課題に取り組んだ。まず、言説レベルではドイツ国内に入り込んだ「東方ユダヤ人」による「婦女売買」が問題視されていたが、ドイツ行政当局が実際に重視していた動きは、西部国境、とくにオランダへ売春目的で越境する女性であったことを史料的に明らかにした。そして、ドイツ行政当局は、オランダとの二国間協定では不十分と認識し、ベルリンに新たに婦女売買中央警察局を設置するなど、警察の情報収集・監視能力の強化が目指されたことを論じた。その後の国際的な警察ネットワークの構築については、今後の課題として残されている。

(3) 19世紀末から20世紀初頭の帝国主義世界体制との関係性に重点を置き、浅田と大井はドイツ国外での越境的行為の監視と管理の問題に取り組んだ。まず、研究分担者である浅田は、東アジアにおけるドイツ統治下の膠州湾租借地を事例に、・・・のテーマを分析した。膠州湾租借地の都市部青島は、ドイツ海軍基地としての役割を有し、駐留部隊が置かれたが、その結果として男性人口が過剰な都市社会が形成された。そして、現地女性への性暴力が多発したこと、また駐留部隊兵士の性病罹患率が高かったことから、日本人の斡旋業者を通じて日本から越境した女性にこの問題の解決を図ったことを論じた。青島におけるドイツの植民地支配を維持するための軍力は、越境的な性とその管理に依拠していたと論じた。また、浅田は、「商業植民地」としての膠州湾租借地を支えた山東農畜産物の労働が山東農村女性によって担われていた点について検討しており、この越境的な物の移動と現地社会のジェンダー秩序の関係性については今後の課題となっている。

大井は、20世紀初頭のハプスブルク帝国海軍による東アジアでの日常的な活動を実証的に分析することで、・・・のテーマに接近した。この作業は、ドイツの事例との比較対照によって、ハプスブルク帝国海軍の意義を検討するものではなく、ドイツを含めた帝国主義列強との関係を分析することで、東アジアにおける帝国主義体制の一面を浮かび上がらせた。「ショー・ザ・フラッグ」の内実として、租界・租借地・専管居留地などに常駐する帝国主義列強の海軍関係者と、「ショー・ザ・フェイス」や「ショー・ザ・ハンド」という具体的な交歓を通じて、ハプスブルク帝国が帝国主義体制のプレイヤーとしての存在感を顕示していたと論じた。本研究は、派遣された巡洋艦そのものが越境的な存在であり、この越境する軍力が帝国主

義体制を維持する要因であることを示している。

(4) 戦争を契機とした越境、そのうちドイツ国外から国内への移動とその管理については伊東が、そしてドイツ国内外での戦争の記憶の表象については松本が分析した。

とくに、伊東は、第一次世界大戦時の捕虜収容所におけるドイツ系ロシア人捕虜を事例に、・・・について取り組んだ。この研究では、ドイツ国籍をもたず、戦時という特殊な状況のなかで、いかに「ドイツ系」が特定されたのかについて、その実態を明らかにした。その特定の経緯は、「人種」や「信条」といった恣意的な判断基準に依拠されることになり、排除される対象も同時に同定され、「民族共同体」が構築されたことを論じた。本研究は、越境を管理する権力の恣意性が特定のイデオロギーに基づいた社会秩序を発現させ、またそのイデオロギーを強化することを示している。

(5) 2015年1月24日に、ベルリン自由大学のゼバスティアン・コンラート氏を招聘した研究会を開催した。コンラート氏は、ドイツにおけるポストコロナル研究、トランスナショナル史、グローバル史を牽引する旗手の一人であり、氏を招いた研究会では、本科研メンバーがそれぞれ自己の研究テーマを発表し、コンラート氏より有益なコメントを得ることができた。とくに、方法論としてtransnationalとinternationalの概念の違いを、いかに研究に反映させるかについて議論が及んだ。さらに、同日、西洋近現代史研究会・現代史研究会と共催の公開研究会も開催し、有意義な研究交流を行うことができた。

(6) トランスナショナルな越境とそれを管理する権力は、国民国家が組み合わせられた国際体制によって規定されると同時に、その国際体制を維持するために、権力そのものも越境的な要因を含むことになる。研究代表者が扱った「婦女売買」の問題でも、国内の警察ネットワークは国際的なネットワークとながらうことで越境的な管理を実現させようとする指向性を捉えることができた。また、研究分担者の青島における越境的な性管理も、国際体制に即した形で形成されていた。このtransnationalとinternationalの二つの要因が権力をいかに構成し、それがジェンダー社会秩序をいかに規定するのか、という問題について、さらなる考察が求められるだろう。

## 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計11件)

大井知範「20世紀初頭のハプスブルク帝国

海軍と東アジア 寄港地交流を通じた帝国主義世界への参与」『史學雑誌』124-2 (2015), 1(177)-33(209), 査読有。

日暮美奈子「帝政ドイツと国際的婦女売買撲滅運動 西部国境を越える女性の移動から考える」『歴史学研究』925 (2014), 24-37, 査読有。

大井知範「『初期日独通交史』研究の深化と拡大」『世界史研究論叢』4 (2014), 98-120, 査読有。

鈴木楠緒子「ドイツ帝国成立期に於ける在華ドイツ系領事館の統廃合問題 『大南澳事件』(1868-1869年)への対応を例として」『東アジア近代史』17 (2014), 77-95, 査読有。

伊東直美「ドイツ系ロシア人捕虜の帰化 第一次大戦と『ドイツ系』であることの意味」『ヨーロッパ研究』13 (2014), 29-40, 査読有。

松本彰「協会運動と三重の国民概念」『西洋史論叢』34 (2013), 11-17, 査読無。

浅田進史「植民地権力と越境のポリティクス 膠州湾租借地におけるドイツ統治を再考する」『境界研究』3 (2012), 117-134, 査読有。

〔学会発表〕(計10件)

浅田進史 “The Siege of Tsingtao in 1914”, International Committee of Historical Sciences, Colloque International “From the Balkans to the World: Going to War (1914-1918). A Local and Global Perspective”, 2014年11月15日, パリ(フランス)。

大井知範「アジア・太平洋の海域世界とドイツ帝国主義 海軍による列強協調の創出と崩壊」ドイツ現代史学会第37回大会、2014年9月20日~2014年9月21日、駒澤大学(東京都世田谷区)。

伊東直美「第一次大戦におけるロシア系ドイツ人捕虜 捕虜の扱いと分類をめぐる問題」ドイツ現代史学会第37回大会、2014年9月20日~2014年9月21日、駒澤大学(東京都世田谷区)。

大井知範「第一次世界大戦前の東アジアにおける『協商の海』 独逸同盟海軍から見た東アジア国際秩序」日本国際政治学会2013年度研究大会東アジア国際政治史分科会、2013年10月27日、新潟朱鷺メッセ(新潟県新潟市)。

大井知範「20世紀初頭の東アジア地域におけるハプスブルク帝国海軍 ハプスブルク帝国とグローバリゼーション」日本西洋史学会第63回大会、2013年5月12日、京都大学吉田本部キャンパス(京都府京都市)。

鈴木楠緒子「ドイツ帝国成立期における在華ドイツ系領事館の統廃合問題 『大南澳事件』(1868-1869年)への対応を例として」日本西洋史学会第63回大会、2013年5月12日、京都大学吉田本部キャンパス(京都府京都市)。

日暮美奈子「婦女売買の作られ方 20世紀初頭ブレイメン警察史料から」西日本ドイツ現代史学会、2013年3月29日、東亜大学(山口県下関市)。

浅田進史「東アジアにおけるドイツ植民地統治と防疫への社会動員 1910・1911年青島での肺ペスト対策を中心に」『歴史と人間』研究会シンポジウム「ドイツ帝国医療は『特有』だったか その中国ペストとアフリカ眠り病対策を中心に」2012年12月16日、一橋大学(東京都国立市)。

浅田進史「社会政策学会のなかのドイツ植民地主義 近年の研究動向を中心に」西洋近現代史研究会、2012年4月28日、専修大学神田キャンパス(東京都千代田区)。

〔図書〕(計8件)

小野塚知二、馬場優、浅田進史 ほか『第一次世界大戦開戦原因の再検討 国民分業と民衆心理』岩波書店、2014年、256(69-88)。

樋口映美、貴堂貴之、日暮美奈子 ほか『近代規範の社会史 都市・身体・国家』彩流社、2014年、352(41-66)。

柳沢遊、木村健二、浅田進史 ほか『日本帝国勢力圏の東アジア都市経済』慶應義塾大学出版会、2013年、350(297-326)。

高嶋修一、名武なつ紀、浅田進史 ほか『都市の公共と非公共 20世紀の日本と東アジア』日本経済評論社、2013年、277(57-77)。

松本彰『記念碑に刻まれたドイツ』東京大学出版会、2012年、368。

鈴木楠緒子『ドイツ帝国の成立と東アジア 遅れてきたプロイセンによる「開国」』ミネルヴァ書房、2012年、296。

〔産業財産権〕

出願状況(計0件)

取得状況（計 0 件）

〔その他〕

ホームページ等

<http://dgtransnational.web.fc2.com/activities.html>

#### 6. 研究組織

##### (1) 研究代表者

日暮 美奈子 (HIGURASHI, Minako)

専修大学・文学部・教授

研究者番号：30384671

##### (2) 研究分担者

浅田 進史 (ASADA, Shinji)

駒澤大学・経済学部・准教授

研究者番号：30447312

##### (3) 連携研究者

鈴木 楠緒子 (SUZUKI, Naoko)

神奈川大学・外国語学部・兼任講師

研究者番号：20625842

松本 彰 (MATSUMOTO, Akira)

新潟大学・人文社会・教育科学系・教授

研究者番号：50165875

（平成 26 年度より連携研究者）

##### (4) 研究協力者

伊東 直美 (ITO, Naomi)

大井 知範 (OI, Tomonori)